

編集・発行 農林水産省農産局技術普及課



この他、トマトのコナジラミ類やきくのアザミウマ類等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので注意してください。

▼詳細はこちら

・都道府県の発表する病虫害発生予察情報と併せてご利用ください。

○「令和6年度 病虫害発生予報第8号」の発表について（令和6年10月9日付け農林水産省プレスリリース）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/241009.html>

○これまでの病虫害発生予報についてはこちら

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課

（担当：岡田、城野、河合）（03-3502-3382）

++・…… 施策情報 ……・++

=====

◆11月の薬剤耐性対策普及啓発月間に向けて適切に抗菌剤を使用しましょう！

【消費・安全局 畜水産安全管理課】

=====

抗菌剤は幅広い分野で用いられており、動物分野では動物用医薬品や飼料添加物として使用されています。動物の健康を維持し、良質な畜産物を安定供給するために抗菌剤の使用は不可欠ですが、正しく使用しないと「薬剤耐性菌」が選択されやすくなり、動物や人の感染症の治療を困難にすることが懸念されます。

薬剤耐性菌を増やさないためには、法令及び用法・用量を遵守し、使用上の注意に従って使用する「適正使用」だけでなく、さらに抗菌剤を使用すべきかどうかを十分検討した上で抗菌剤を使用する、抗菌剤を使用しないで済むようワクチン等で感染症の予防を行うなどの「慎重使用」が重要です。

普及指導員の皆様におかれましては、抗菌剤の適正使用・慎重使用につきまして改めて生産者の皆様にお伝えいただき、使い方を見直していただきますようお願いいたします。

▼詳細はこちら

○動物に使用する抗菌性物質について

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzy/torikumi.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 消費・安全局 畜水産安全管理課 薬剤耐性対策班

（担当：福永、出口、田中、富金原）（03-3502-8097）

=====

◆農業現場におけるクマ類の出没及び人身被害防止等に対する指導等の徹底について

【農村振興局 鳥獣対策・農村環境課】

=====

昨年度は人の生活圏へのクマ類の出没が相次ぎ発生し、人身被害は過去最多を記録しました。今年度に入ってもクマ類の出没件数は、直近5か年の同月比

で最多となっています。クマ類は冬眠に入る前の 10 月から 11 月にかけて、餌を求めて人里近くまで行動圏が拡大すると一般的にいられていることから、出没についてより一層の注意が求められます。

今後、農業現場においても収穫期を迎えることから、クマ類の出没による人身被害、農作物被害等の防止に向けて、誘引物の除去など、クマ類への注意、対策が必要であり、農林水産省から各都道府県あてに通知したところです。

普及指導員の皆様からも農業者等への指導及び注意喚起の徹底について、ご指導をよろしくお願いいたします。

▼詳細はこちら

○農林水産省から都道府県あての注意喚起の通知

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuuikanki/attach/pdf/index-11.pdf>

○農林水産省作成リーフレット「クマにご注意下さい！」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuuikanki/attach/pdf/index-9.pdf>

○環境省 WEB サイト「クマに関する各種情報・取組」

<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>

○「クマ類の出没対応マニュアル改定版－（環境省）」

<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/>

※お問い合わせ先

農林水産省 農村振興局 鳥獣対策・農村環境課

(担当：谷川、水野) (03-6744-7642)

◆〈みどり戦略技術紹介〉AI-土壌図と土壌環境 API による圃場管理

【大臣官房政策課 技術政策室】

みどり戦略技術紹介では、毎月、環境負荷の低減に取り組む農業者の皆様に役立つ技術をご紹介します。

今回ご紹介するのは、AI-土壌図と土壌環境 API による圃場管理です。

AI-土壌図は、既存土壌図の低解像度や空白域といった問題点を解消し、一筆ごとの土壌特性を確認できる高解像度予測土壌図です。また、土壌環境 API は、AI-土壌図と気象データを組み合わせて土壌の温度と水分を予測し、緩効性肥料や有機質資材の「肥効見える化」を実現します。これらの技術を組み込んだ営農支援ソフトに、有機質資材の種類や施用時期を入力して肥効を知ること、化学肥料使用量の適切な低減が可能になります。

本技術の詳しい情報については、みどり技術カタログをご覧ください。

普及指導員の皆様におかれましては、本技術をはじめ、カタログに掲載されている技術の活用をご検討いただき、生産現場で広く活用されるようご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら

○「みどりの食料システム戦略」技術カタログ(分割版：露地野菜)p. 4

AI-土壌図と土壌環境 API による圃場管理

「3 PDFファイルについて」をご覧ください、「Get Adobe Reader」のボタンでAdobe Readerをダウンロードしてください。